

平成30年度学校評価結果報告書

桶川市立桶川中学校

校長 磯田 輝昭

1 目指す学校像 明るく元気、地域のほこり桶川中学校

2 評価結果

領域	No.	評価項目	自己評価		学校関係者評価
			評価	説明及び学校の考え（・具体策）	
組織・運営	1	校務分掌の各主任を中心に、分掌内で課題を共有し、前年度の反省を生かした計画を立てて実践する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校務分掌の各主任による行事の計画・立案時に、反省の予定まで組み込まれている行事もあるなど、随時振り返りを行い、来年度へ生かすことが計画的に実践されている。 ○分掌内で協力して進められているが、検討する時間の確保が厳しい部分がある。来年度以降は時間の確保に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事が計画的に実践されているかを次年度へ生かす手立てとして、どれだけできたかという「見える化」、例えば10のうち8はできた、などに取り組んでもらいたい。
	2	学年や分掌ごとの主任がリードし、各担当で連携を取り、組織的に校務を進めた。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校務分掌のリーダーが、職務の内容をきちんと把握し、各担当と連携を取りながら校務を進めることができていた。 ○各学年内では迅速な報告・連絡・相談があり、情報の共有、指導に当たることができた。一方で学年間の指導の統一性に関して幾分か課題があった。より密な連携を目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に指導したりしなかったりでは、ルール徹底はできない。ルールの見直しを含め、より密な連携を行ってほしい。
学習指導	3	各教科・領域等の指導で、学習への興味関心を高め、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教科会議などでは、継続的な教材研究を通して、基礎的・基本的事項の精選と構造化を図っている。それにより生徒がしっかりと知識・技能を習得できている。 ○学校課題研究における授業力向上部の取組により、それぞれの教科の中で工夫が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の改訂に向けて、主体的・対話的で深い学びを推進し、学力の底上げに取り組んでもらいたい。
	4	各教科・領域等の指導では、生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、言語に関する能力を育成する上で必要な言語活動の充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の指導では、生徒の思考力・判断力・表現力等を高める授業の展開を実践されている。 ○言語活動については、教科会などで意図的に時間と場面を工夫し、充実が図れている。 ○学習指導要領改訂においては、言語能力の確実な育成や理数教育の充実などが改善事項としてあるため、各教科でもう一度、活動内容の見直し等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業風景を見せてもらったが、子供たちが一生懸命授業に取り組んでいる様子がよく分かった。 ・3年生がクラスごとに歌の練習をしていたが、どのクラスの歌声も素晴らしかった。思わず拍手をしてみたが、「ふるさと」には心を打たれた。
	5	各教科等の指導では、生徒が見通しをもって学習に取り組むとともに、学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れるように工夫する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の指導において、来年度の年間指導計画を作成する際に、本年度の反省を踏まえて、授業内容の精選や計画的な見通しをもった指導が盛り込まれている。 ○授業を自立的に振り返るための自己評価カードの使用などについて、教科部会などで検討しながら共通理解をもって実行していく。 	

生徒指導・教育相談	6	生徒指導上の諸課題に対して組織的に対応し、きめ細かく指導・支援を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○共通マニュアルをもとにチームワークを持って諸問題に対応しているが、いくつかの規則について表記の一致しない面があり、今後の改善が必要である。 ○報告・連絡・相談が不十分な面があった。 ○今後も積極的な生徒指導について、教員のさらなる研修と123共通理解が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の顧問も学級担任と同一歩調で生徒指導に取り組んでおり、ありがたい。ぜひ、組織による対応を、今後もしっかりと行っていただきたい。
	7	生徒の「心」を育て、適切な判断力を培うことによって、安心して安全な行動がとれるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導朝会や一斉道徳を実施し、全校で「心」の教育を推進することができた。 ○職員によって指導の内容や対応が変わらないよう、曖昧な規則を改善していく。 ○小さなトラブルの種を見逃さない「気づく力」を教員・生徒ともに高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学年の生徒も挨拶がしっかりとできている。校内を回っていても、すれ違うたびに挨拶をしてくれて、気持ちがいい。
	8	生徒同士によるいじめを防止する。発生してしまった場合は、事態を迅速に把握・対応し、解消とその後の見届けをする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各職員が意識を共有し、複数対応で指導に当たることができた。 ○今後もいじめが起きにくい環境づくりを継続していく。また、来年度より担任と生徒の二者面談を設定し、よりいじめを見逃さない体制を整えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度行う予定の二者面談は、とても良い取り組みだと思う。しっかりと取り組んでもらいたい。
健康教育	9	健康教育の指導の充実を図るため、年間指導計画（学校保健・食に関する指導）に基づいた指導を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○保健委員会による毎朝の健康観察や学校保健委員会への参加、薬物乱用防止教室などが機会を捉えて開催されており、生徒の健康への啓蒙を図る良い指導となっていた。 ○食に関する意識、歯の健康に対する意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震災害時のマニュアルを徹底してもらいたい。生徒の動きをみていると、地震時にその場にしゃがみ込んでしまう子がいた。これは危ない。また、部活動の外部指導者など、外部から来た人にもわかるようにすると思う。
	10	施設・設備の安全点検を常時実施し、事故を未然に防止するよう努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○安全点検は毎月しっかり実施されており、危険個所の発見や事故を未然に防止できている。 ○机やイスなどの備品が不十分であり、修繕・交換ができないものがある。また、不審者が多く、強風による倒木等もあったため、より一層安全管理の意識を高くもつ必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練についても引き続きしっかりと取り組ませていただきたい。ショート訓練はとても良い取り組みだと思う。
	11	危機管理マニュアル及び防災マニュアルの改善を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○危機管理および防災マニュアルが学校の実態に応じて作成・改善されている。 ○防災訓練では、日本で起きている災害・事件を念頭に置いた訓練がなされている。これからも課題点を挙げ、改善して工夫していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも安心・安全な学校を目指して取り組んでもらいたい。
学習環境	12	機能的、美的な掲示教育を進め、校内に活気と潤いをもたせる。特に、教室経営の核である教室掲示を重視する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○屋外掲示板や職員室周辺、渡り廊下などの掲示物は、行事や季節などを考慮して定期的に張り替えられているものが多く、教室内の掲示物における学習環境の充実は、計画的に実施されている。 ○毎月外掲示が変わり、季節感が出ている。保健、給食の掲示も見やすく貼れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内は美術科の作品を中心に、校内掲示が素晴らしい。とても気持ちいい。
	13	除草及び花壇等を整備し、花いっぱいの美しい環境をつくる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○正門から校舎までの通路や中庭の除草は計画的に実施され、学校花壇の整備も細かく行われている。美しい環境づくりができていた。 ○PTAの方々や学校応援団の方々の協力もあり、花の多い環境ができた。環境委員の生徒たちは夏季の水やり当番などもよくやっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正門から校舎までの通路は、計画的に細かく整備されとてもきれいである。反面、西側のフェンス沿いが草だらけだった。西側の雑草についても、もう少し手を入れていただきたい。

	14	清掃は全生徒、全職員で一齐に行い、学校美化を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○職員に自ら学校の美化活動へと積極的に取り組む姿勢があり、全生徒、全職員で清掃を行うことができていた。 ○昼清掃が定着し、私語のない清掃も徹底できつつあるが、取組に個人差もあるため、今後も環境委員会を中心に啓蒙を図る必要がある。 	
教職員の資質向上	15	職員相互の尊敬・信頼・協力を高め、働き甲斐と張りのある明るい職場をつくる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学級運営や生徒指導など互いに共有し、新たな指導法を発見できた。 ○分掌外の仕事で、協力が必須の場面でも意識に差があるように感じる。 ○学年間の連携をより深めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年間の連携が課題とのことだが、どの職場でも課を越えた連携は難しいと思う。学校現場は毎年職員の入れ替わりがあり大変だと思うが、互いに情報を共有し取り組んでもらいたい。
	16	研修の機会や場を計画的に設定し、指導力の向上に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校課題研究について、研究主任や部長を中心に研修を深め、生徒たちの指導につなげていた。 ○定期的に研修会を行い、取り組みや課題、成果などについて話し合いを進めることができた。 ○課題研究以外の研修の場、機会が少ないように感じる。 	
家庭・地域との連携	17	学校応援団を計画的に運営する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○PTAの方や学校応援団の方が、平日・休日ともに精力的に活動していただいた。生徒や先生方も協力していた。 ○PTA活動が執行部の方々を中心に年々計画的で活発に進められており、とても協力的な保護者が多い印象がある。 ○教員側の活動が、管理職を中心に特定の先生方に偏ってしまっているところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方が、生徒に対しては学年を越えて一致団結した行動ができている。素晴らしいと思う。 ・地域の回覧物は月末には各家庭に回覧するので、学校便りは22日から25日ぐらいに届くと、すぐに回覧ができるのでお願いしたい。
	18	学校公開や家庭・地域との双方向の意見交換の場（紙面、会合（保護者会・懇談会等）を設定し、より密な連携を実施する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だより、ホームページ等とても充実しており、十分に公開の機会や、各種便りが発行されていた。定期的な発信を行うことが出来ていた。 ○不審者情報のメールなどの配信が素早かった。 	
その他	19	生徒の自治的な活動を尊重し、自治的な活動による学校改善を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会を中心に活動が行われていた。本部役員の生徒の多くは、あいさつ運動やクリーン活動を公約に掲げており、実行していた。また、生徒の自発的な募金活動の発案もあり、実行された。 ○活動内容が多く、行事が続くと計画が慌ただしくなり振り返り等ができないこともあった。見直しをもった計画を立案していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の見とどけや指導の下、生徒の自治的な活動が行われていた。助言があって自主性が身につく。よくサポートしていた。 ・子供同士で教え合い、楽しく学び合う姿が見られた。 ・桶川中学校の生徒は、よく自主性が育っていると感じる。
	20	学級活動における生徒の自発的、自治的な活動を中心として、学級経営の充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学級会オリエンテーションの実施により、話し合い活動のルールが確立された。 ○学級会の充実が図られ、生徒の自治的な活動を促すことができていた。今後も、学級内の諸問題を生徒が出し合い、折り合いをつけて解決しようとする態度を育てていく。 	

*評価項目については各学校で領域ごとに項目を2～3設定する。